

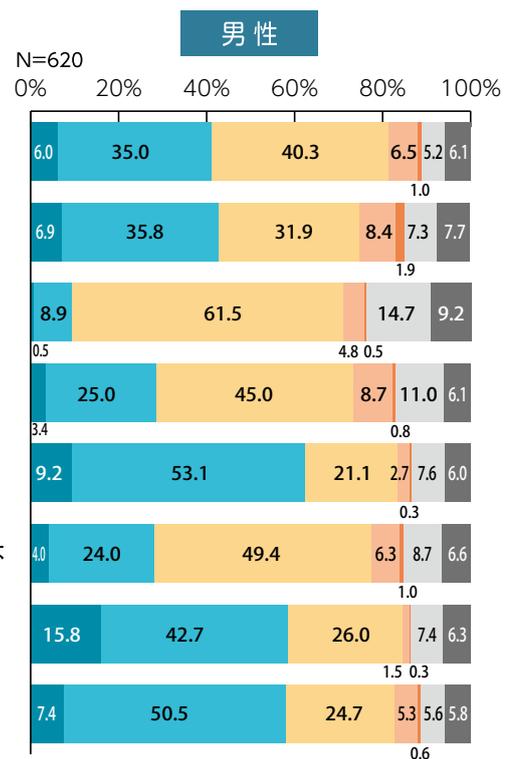
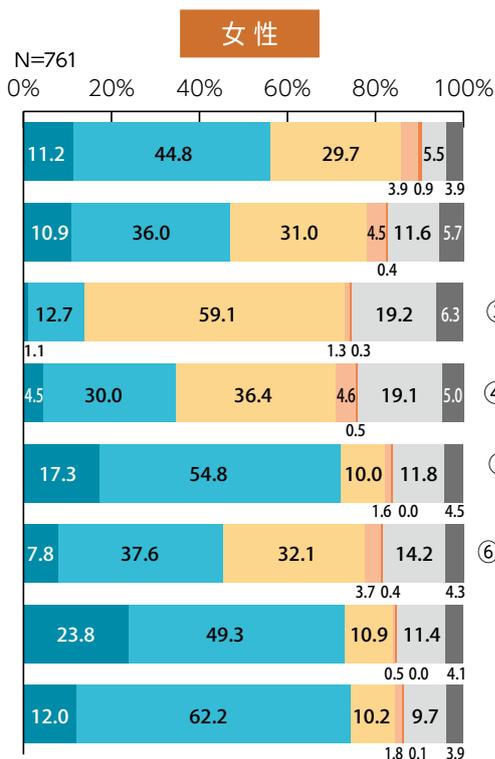
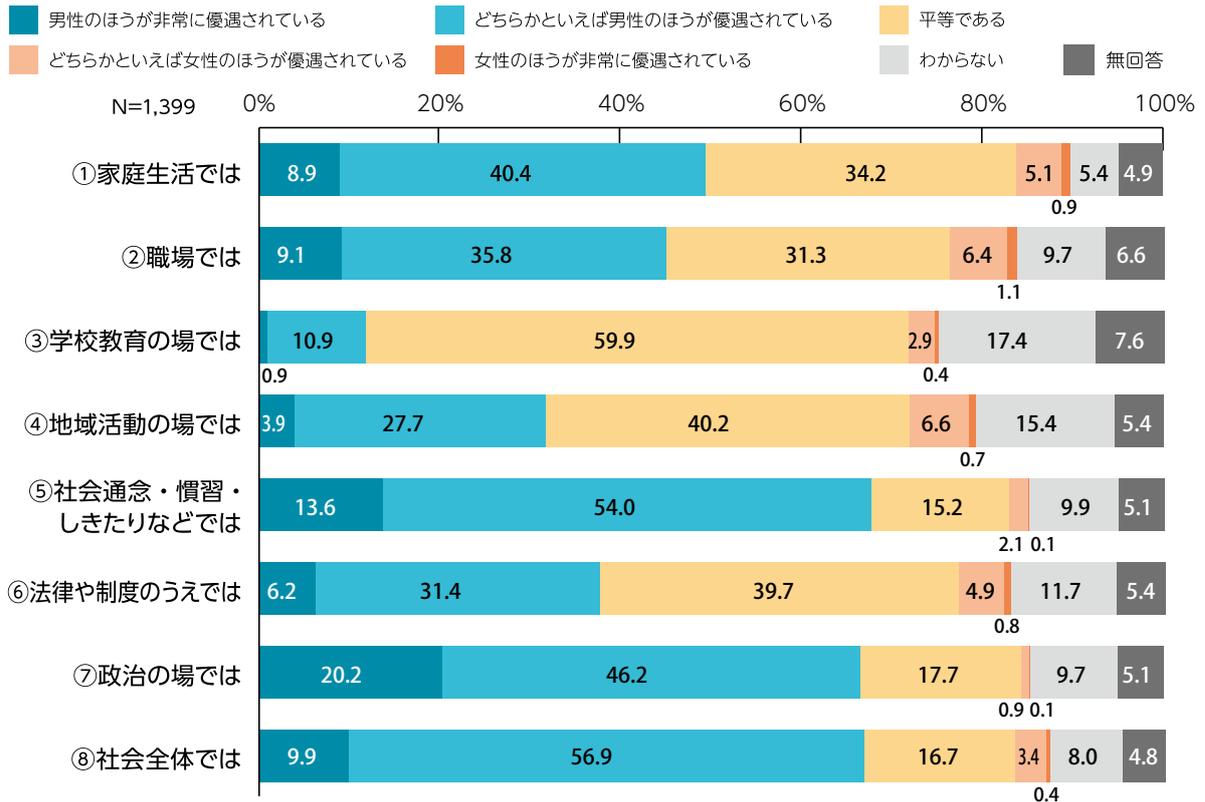
令和 2年度	男
県	女
民	共
意	同
識	参
調	画
査	に関する



和歌山県

## 男女の地位の平等感 報告書 p.25~31

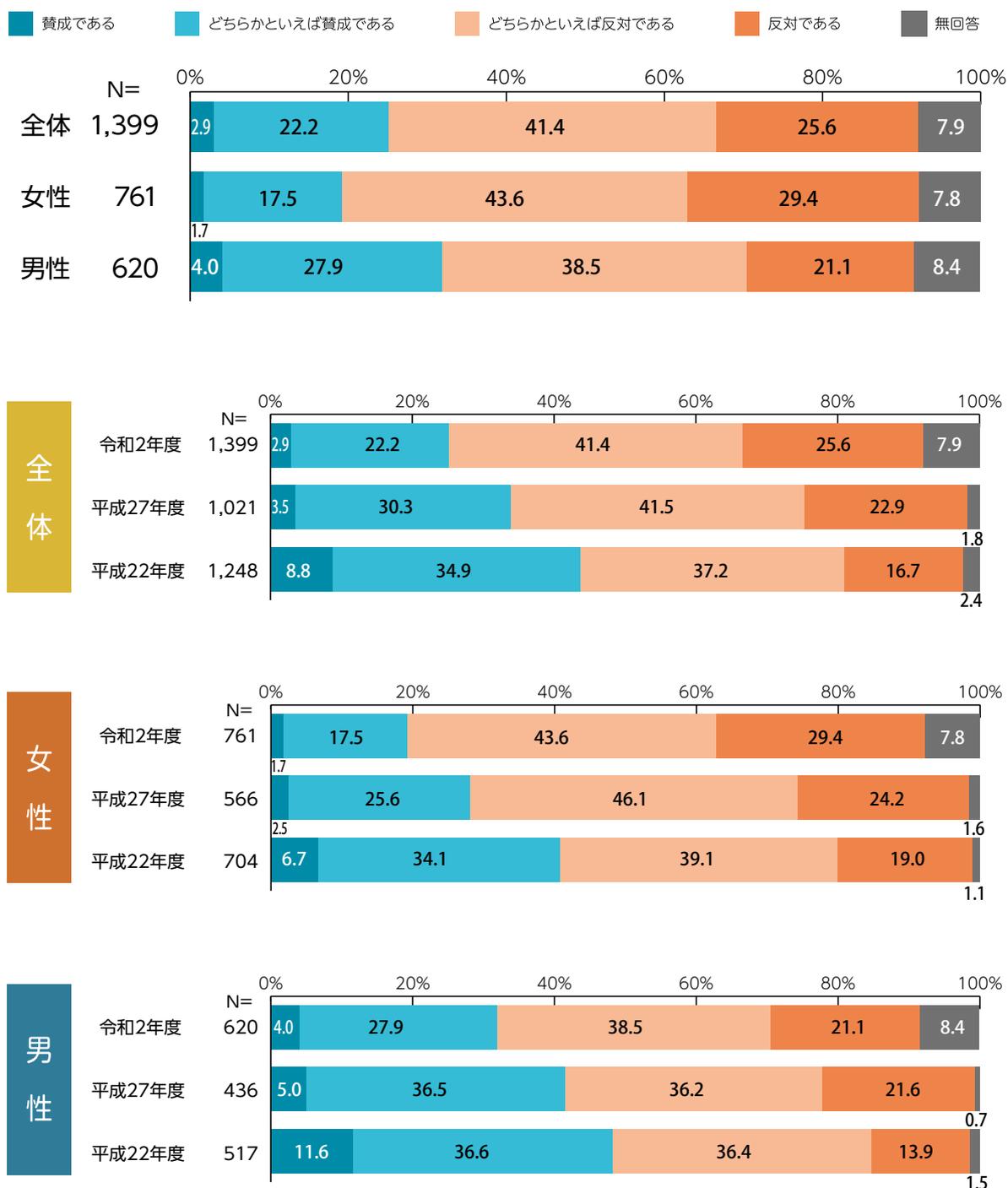
- 社会全体でみた場合の男女の地位の平等感は、女性の74.2%、男性の57.9%が『男性優遇』<sup>\*</sup>と感じており、男女ともに過去最も高い数値となった。
  - すべての分野で『男性優遇』の割合は女性のほうが高く、「平等である」は男性のほうが高くなっている。
- ※ 「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせたもの。



# 男女の決められた役割分担についての考え 報告書 p.32~34

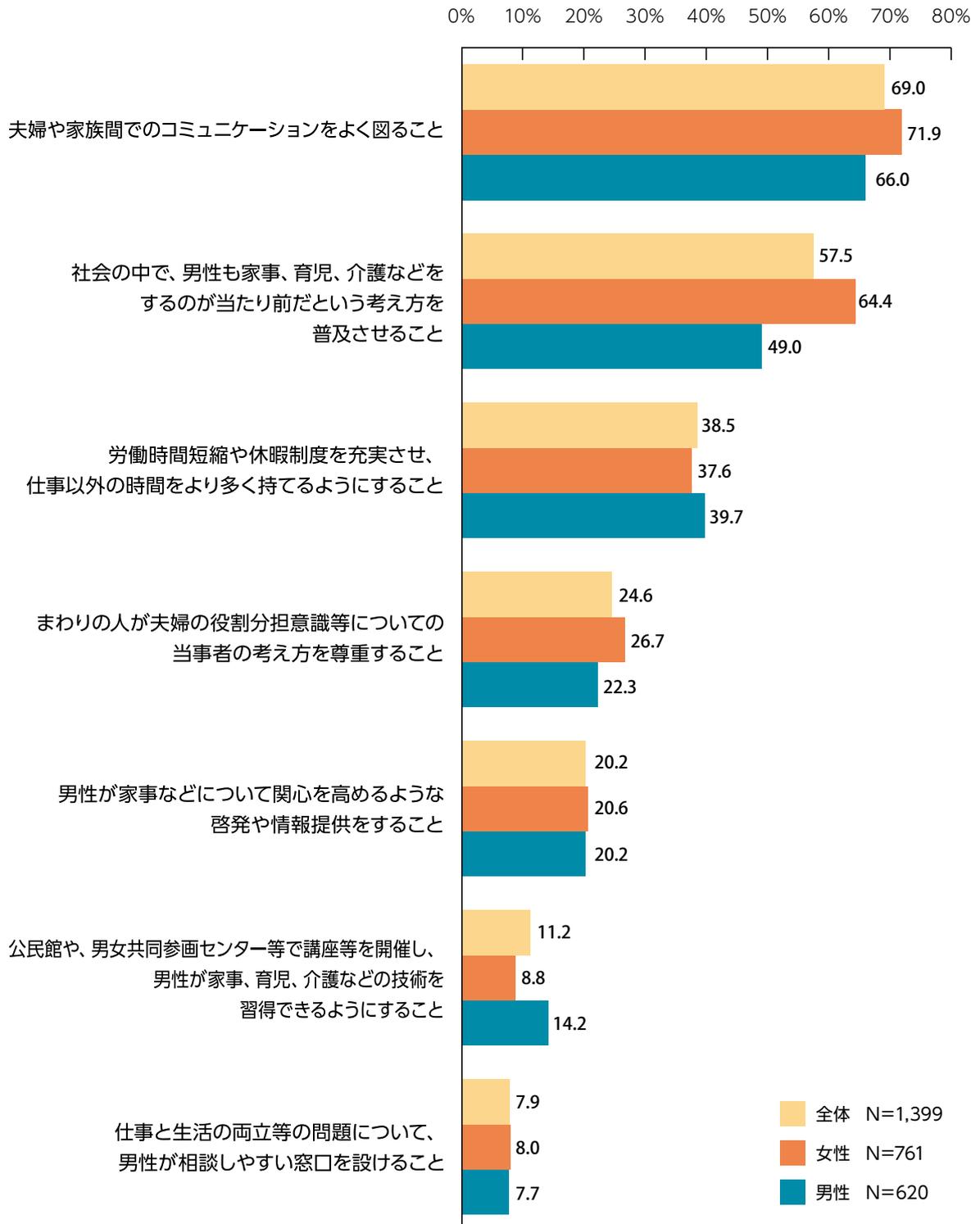
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『否定的な意見』\*が女性で73.0%、男性で59.6%となっている。
- 平成14年度調査において『否定的な意見』は女性56.8%、男性48.0%であったが、今回調査では女性73.0%、男性59.6%となった。内閣府の全国調査においても同様の結果となっており、全国的に『否定的な意見』が増加傾向にあるといえる。

\* 「反対である」と「どちらかといえば反対である」を合わせたもの。



## 男性の家事・育児等の積極的参加推進 報告書 p.49~50

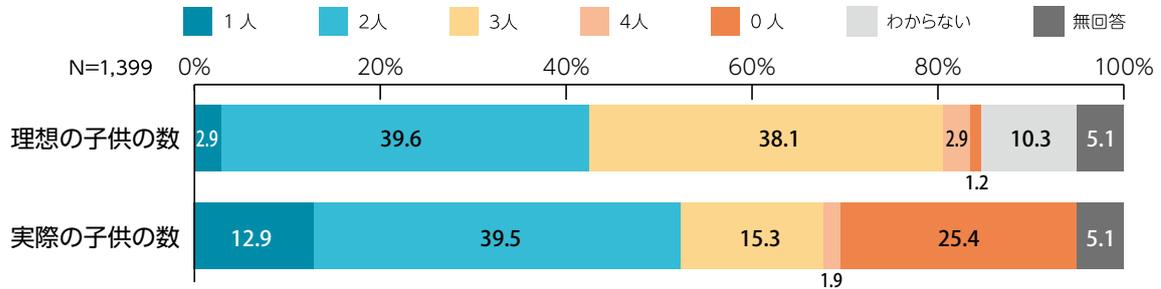
- 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が69.0%と最も高くなっている。これは、前回調査と同じ結果であり内閣府の全国調査（59.1%）と比較しても高い割合となっている。
- 「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」では、女性64.4%に対して男性49.0%となり、15.4ポイントの差がみられた。



# 子育てや子供の教育について

## 理想の子供の人数、実際の子供の人数 報告書 p.52~55

- 「理想の子供の人数」は「2人」と「3人」がそれぞれ約40%で男女間に差はみられなかった。
- 「実際の子供の人数」は「理想の子供の数」と比べて「0人」と「1人」の割合が高くなっている。

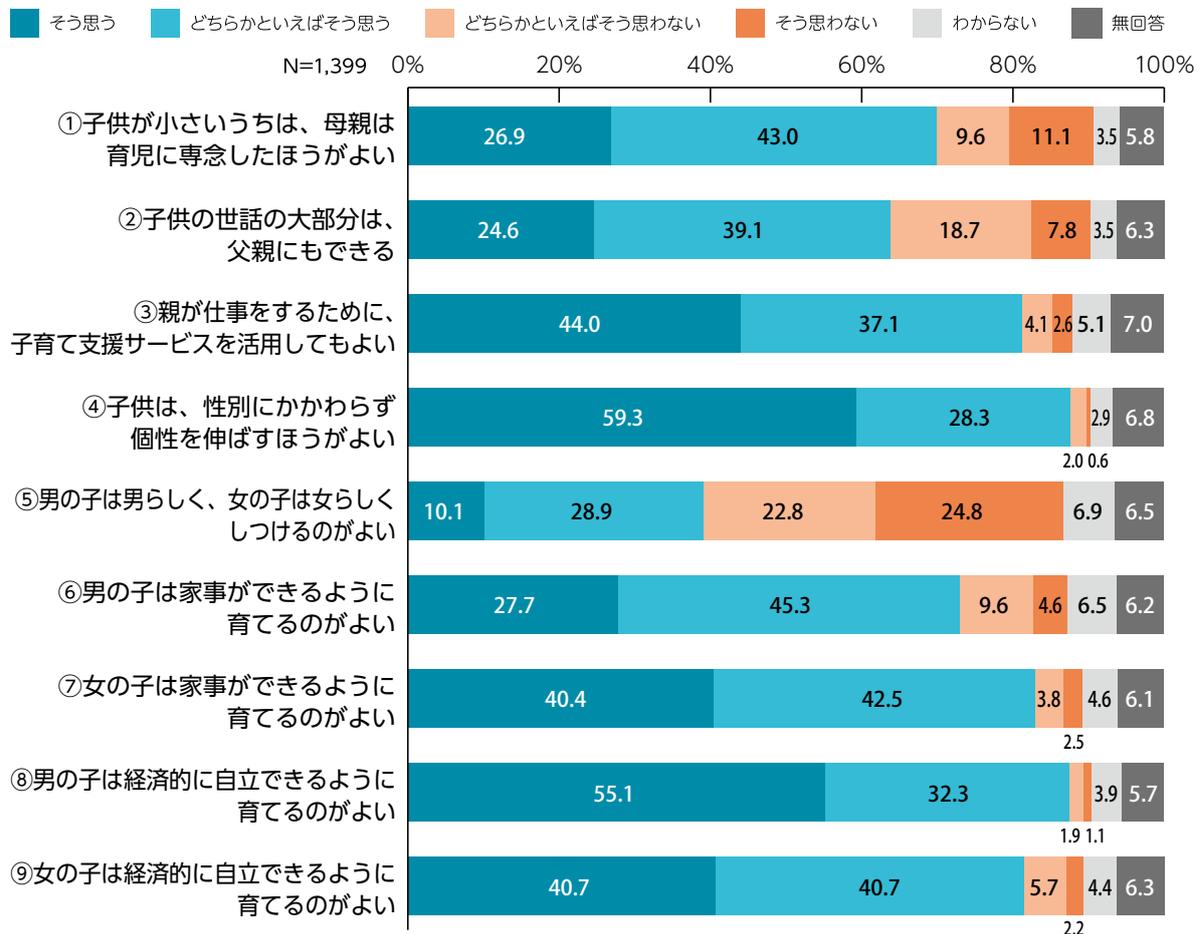


※「実際の子供の人数」では「わからない」という選択がない。  
 ※「理想の子供の人数」での「4人」は、「実際の子供の人数」では「4人以上」となっている。

## 子育てについての考え 報告書 p.58~65

- 「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」は平成22年度調査までは約60%が『肯定的な意見』\*であったが、平成27年度調査では52.8%、今回調査では39.0%と変化してきている。
- 「①子供が小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」は前回調査まで『肯定的な意見』が80%を超えていたが、今回の調査では69.9%となった。
- 「②子供の世話の大部分は、父親にもできる」は平成14年度調査で『肯定的な意見』が45.9%であったが、回を重ねるごとに数値が上昇し、今回の調査では初めて60%を超えた。

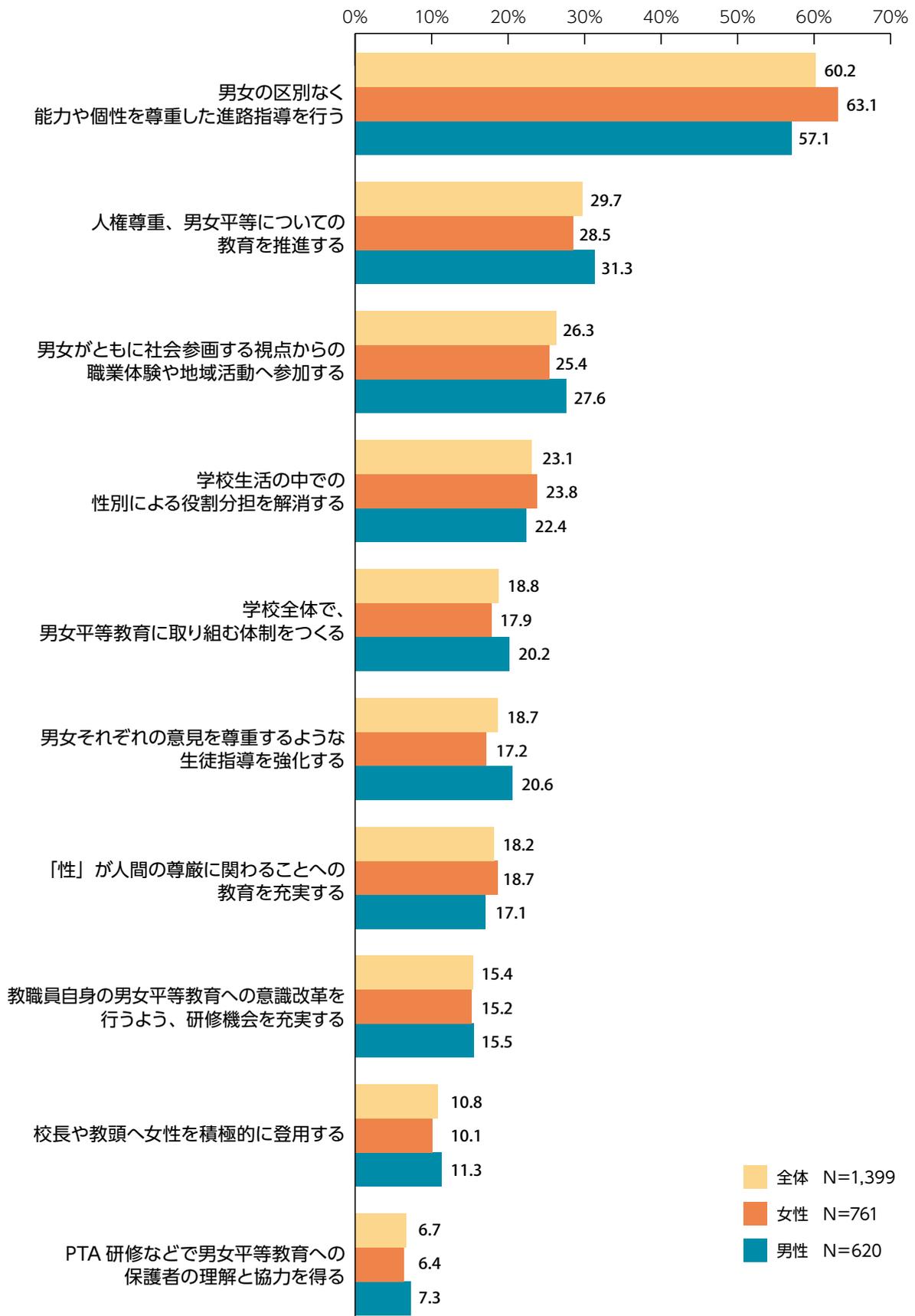
\*「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの。



# 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること

報告書 p.66

●「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」が過去調査と同様、最も高くなっている(60.2%)。

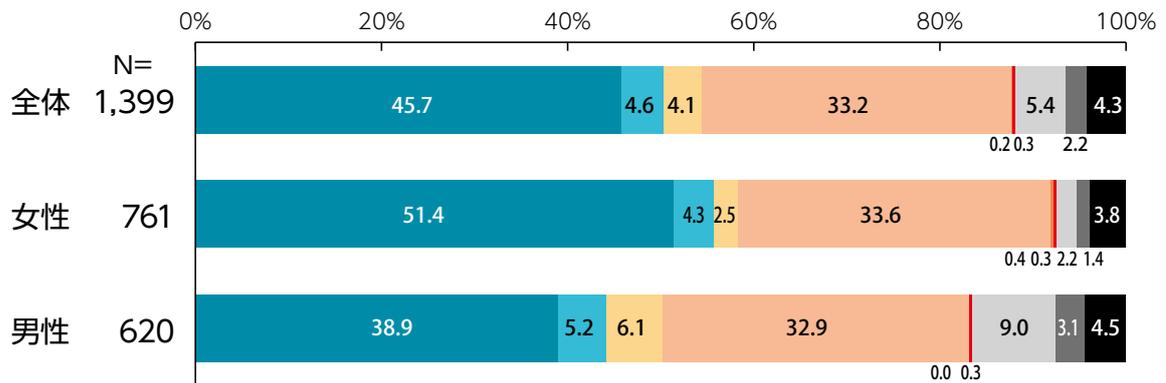


## 女性の理想の生き方・実際の生き方 報告書 p.67~73

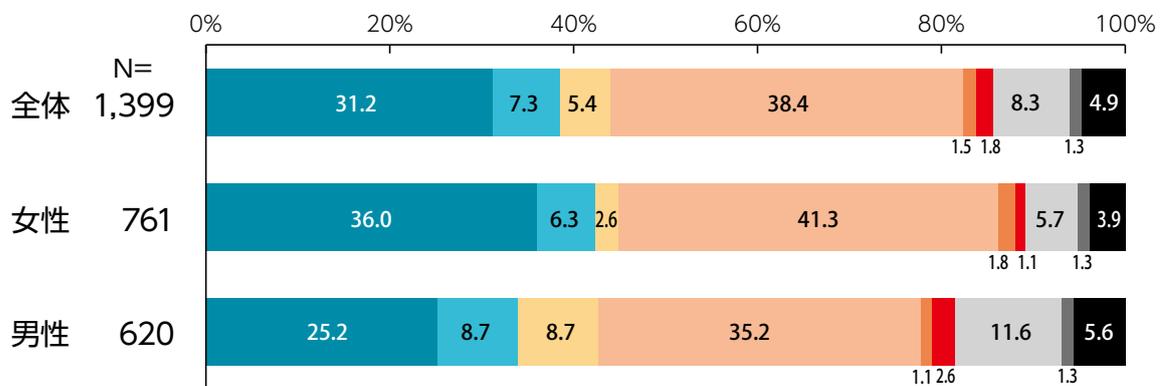
- 理想の(理想としていた)生き方において、過去調査では「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が常に最も高かったが、今回の調査では「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が最も高くなった。
- 「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」を理想とする女性の割合が調査開始以来、初めて50%を超えた。
- 実際になりそうな(現実にそうなっている)生き方は、これまで同様「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が約40%となっている。



### ● 理想の(理想としていた)生き方



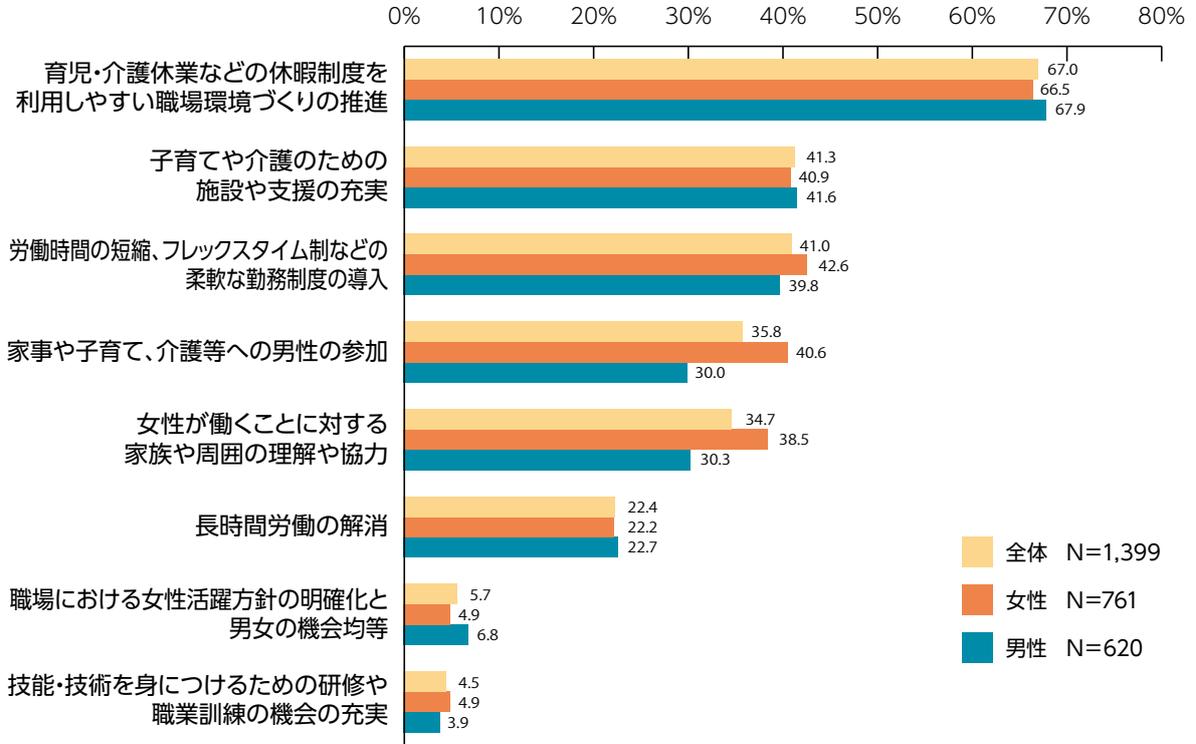
### ● 実際になりそうな(現実にそうなっている)生き方



# 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと

報告書 p.76~78

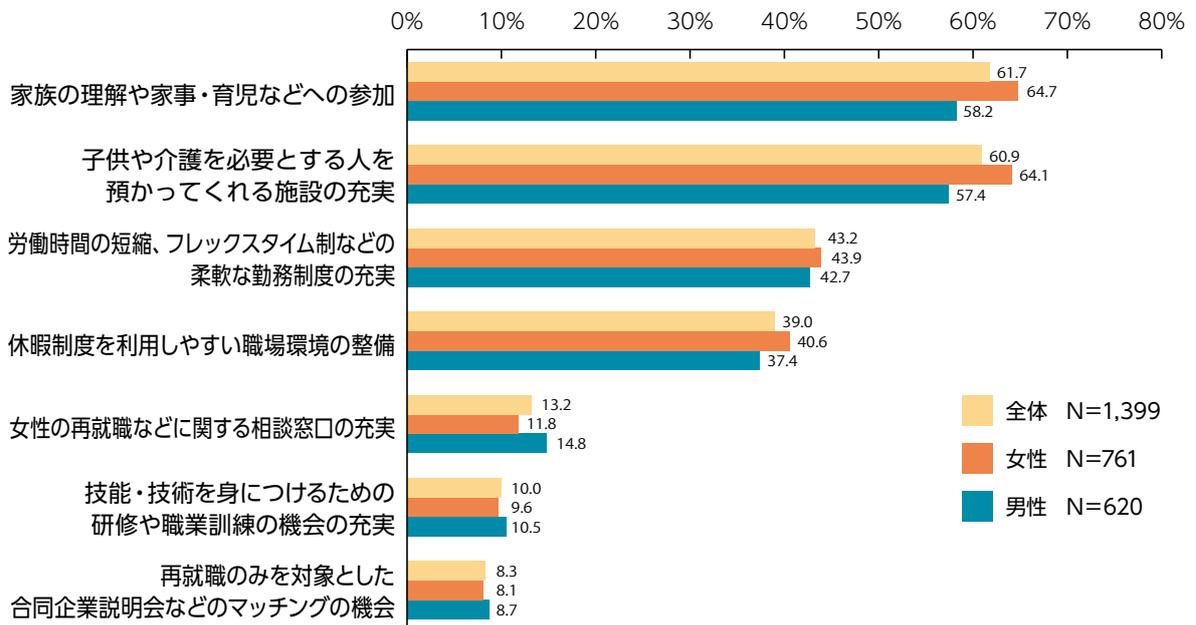
- 「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が67.0%と、最も高くなっている。
- 「家事や子育て、介護等への男性の参加」、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」は前回調査と同様に女性が男性よりも高く、男女間で10ポイント程度差がある。



# 退職した女性が再就職するために必要なこと

報告書 p.81~83

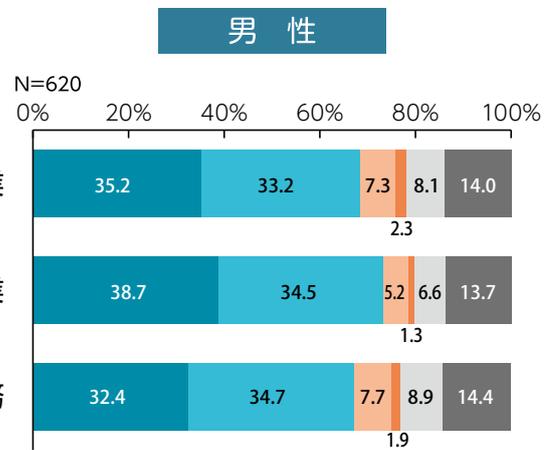
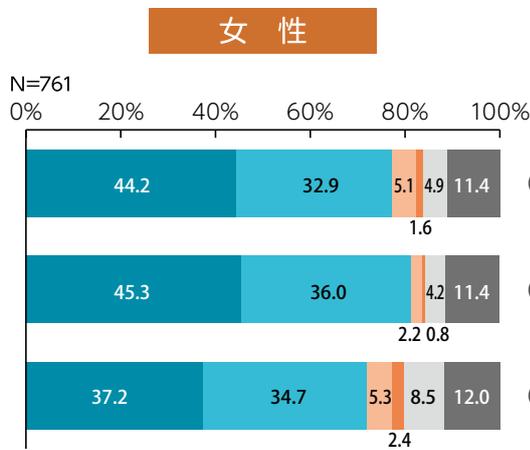
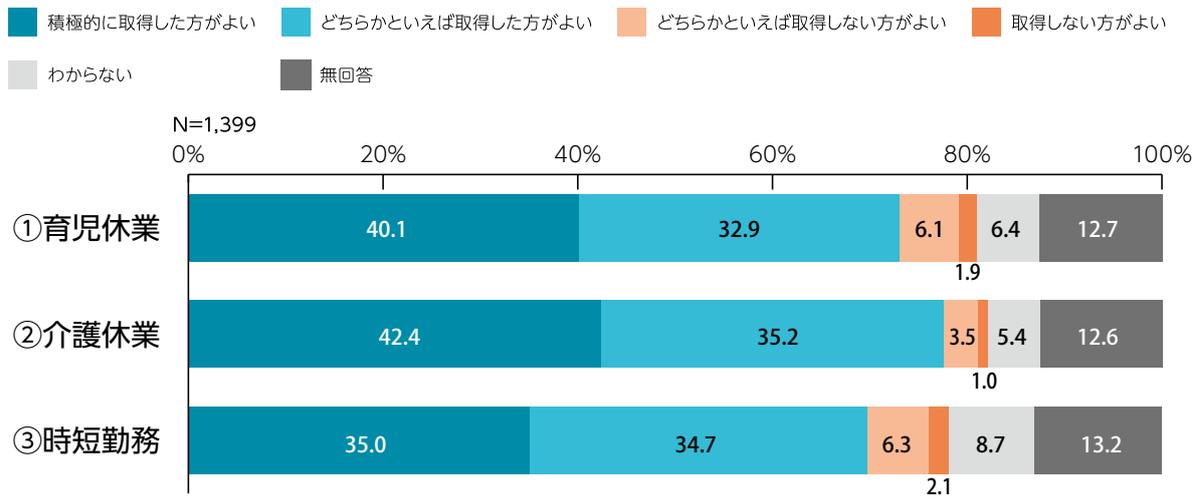
- 「家族の理解や家事・育児などへの参加」と「子供や介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」でそれぞれ60%を超え、高くなっている。



# 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を 取得することについて

報告書 p.86~87

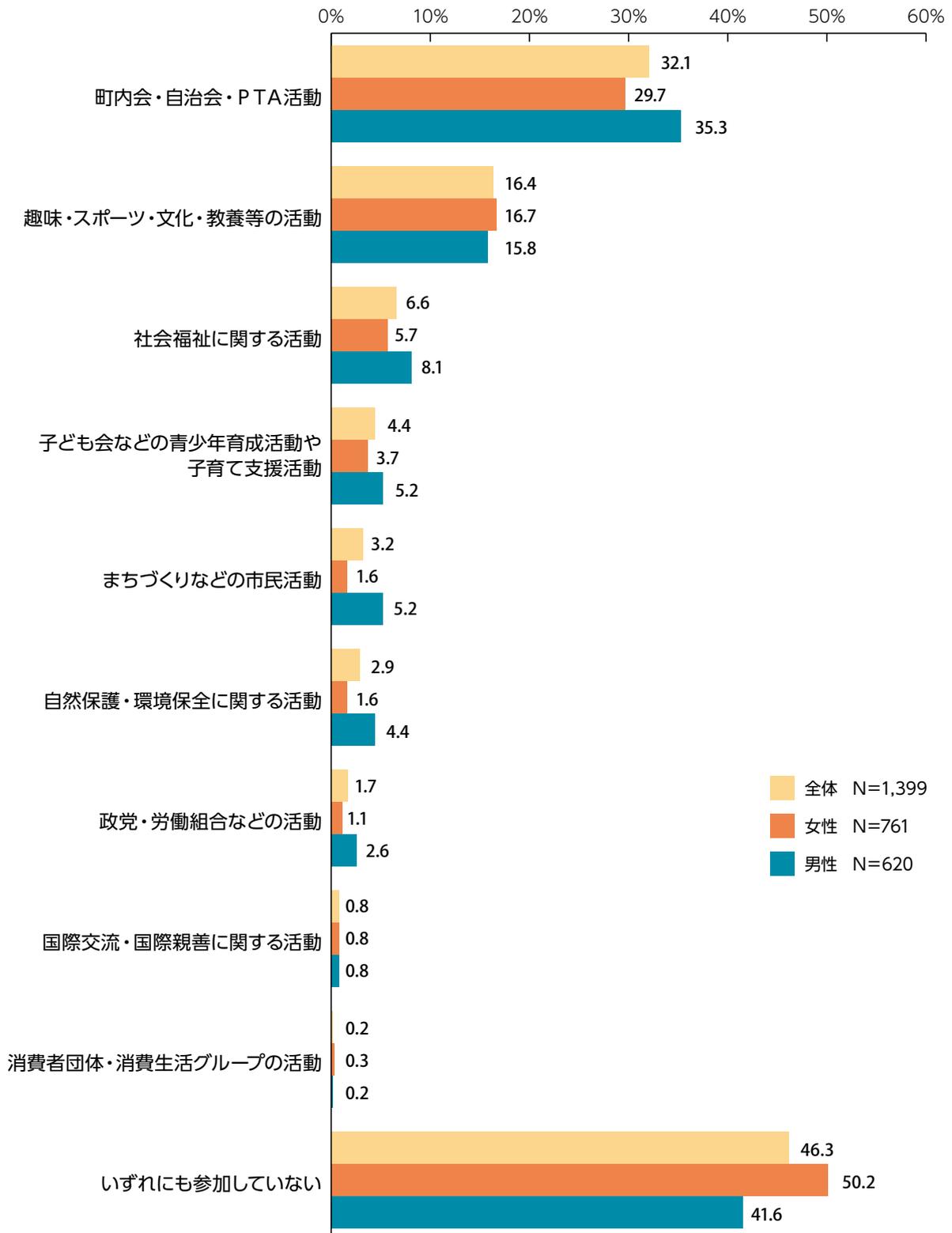
- いずれの項目も『肯定的な意見』\*が70%前後と高くなっている。
  - また、男女別にみると、いずれの項目においても女性の『肯定的な意見』は男性よりも高くなっている。
- \*「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせたもの。



## 現在参加している社会活動、地域活動

報告書 p.88~89

- 「いずれにも参加していない」が46.3%と最も高く、調査開始以来最も高い割合となった。
- 「町内会・自治会・PTA活動」が32.1%と次いで高く、過去調査同様女性に比べ男性の割合が高くなっている。
- 「趣味・スポーツ・文化・教養等の活動」が過去調査では常に20%を超えていたが、今回の調査では16.4%と最も低い割合となった。

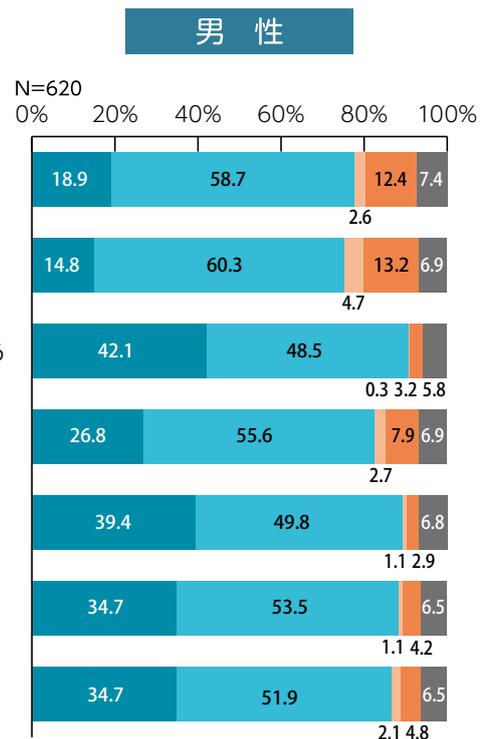
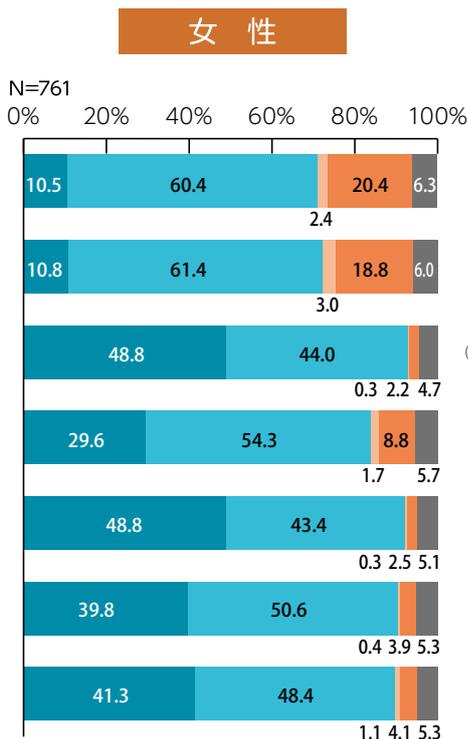
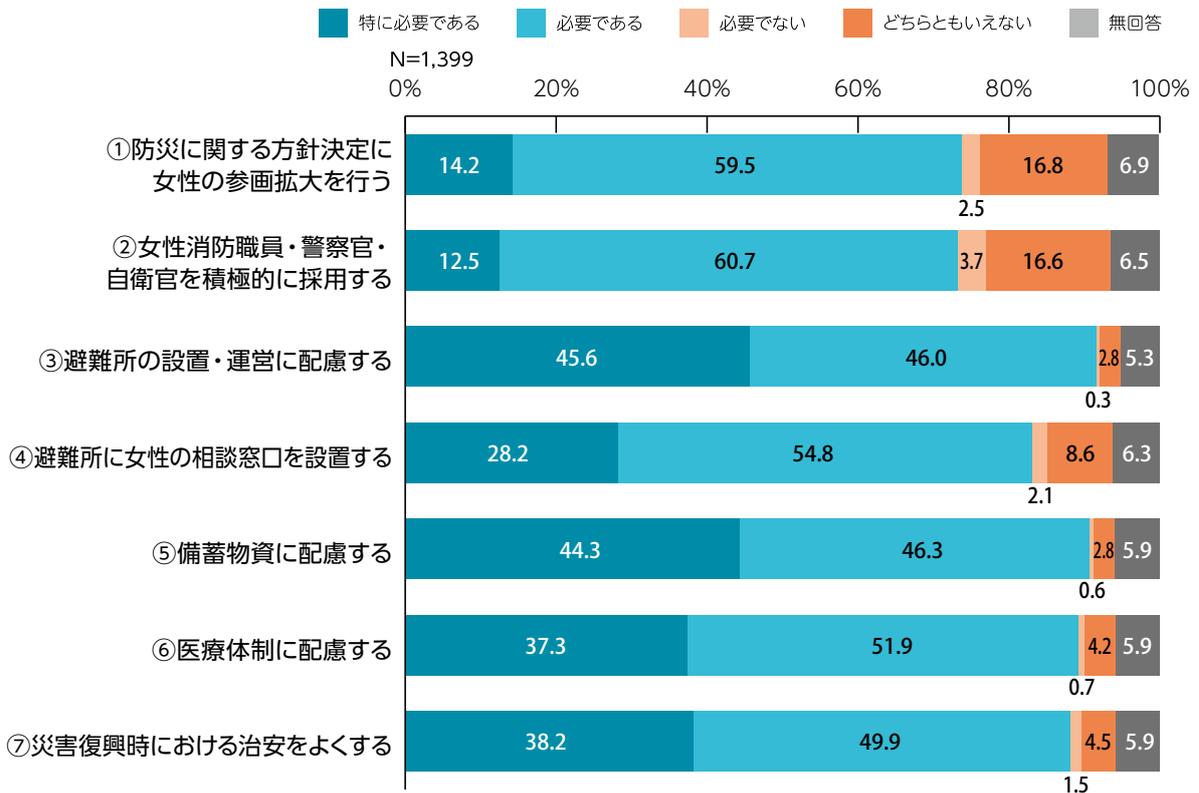


# 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること

報告書 p.92~95

- 「③避難所の設置・運営に配慮する」と「⑤備蓄物資に配慮する」では過去調査同様「必要である」\*が高い割合となっており、90%を超えている。
- 「①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う」、「②女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用する」では他の項目に比べて「どちらともいえない」が多くなっており、過去調査と同じ傾向がみられる。

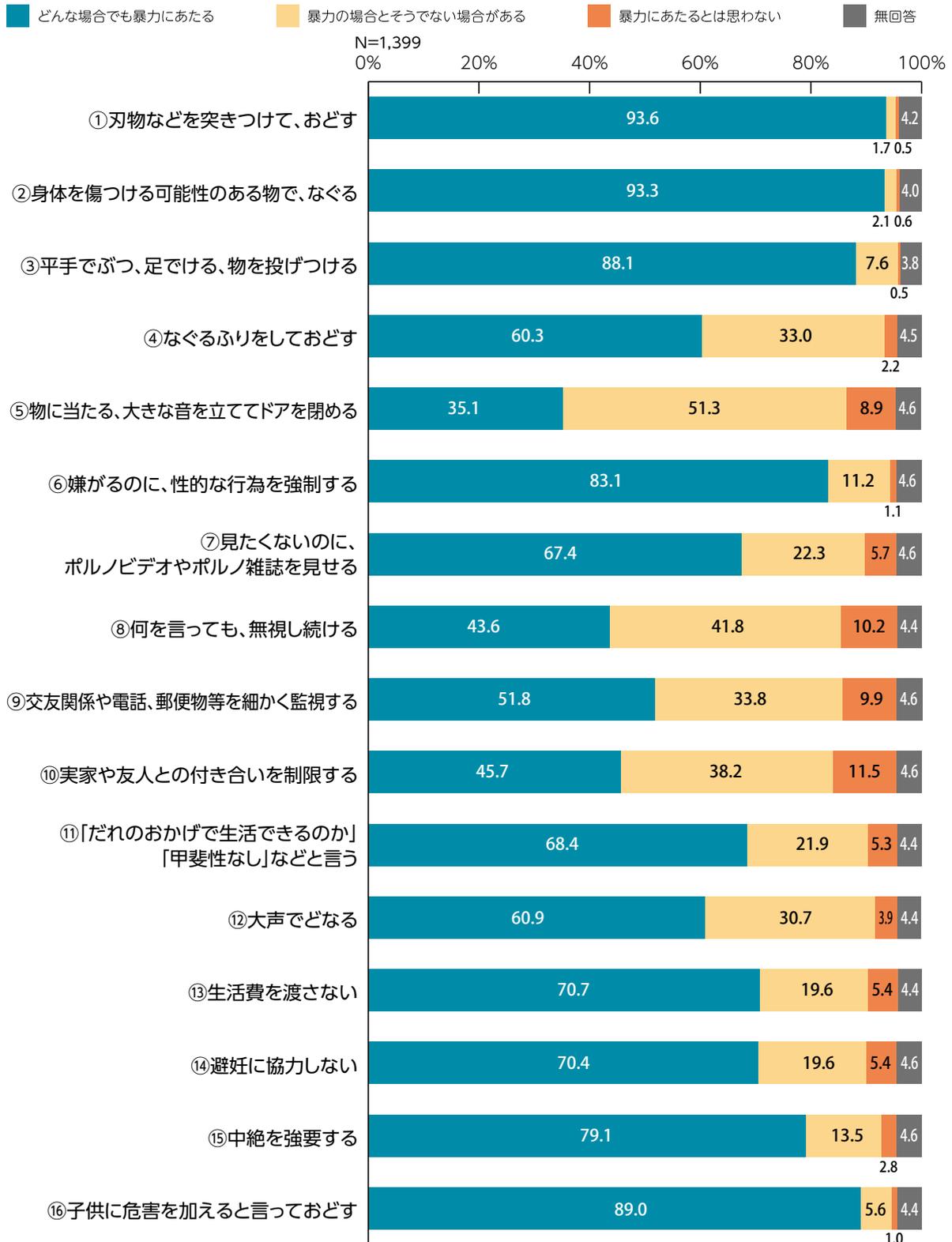
\*「特に必要である」と「必要である」を合わせたもの。



## 暴力と思う行為

報告書 p.96~104

- 過去調査と比較すると、全体的に「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加し、「暴力にあたるとは思わない」が減少している。
- 今回調査から新たに追加した「⑤ものに当たる、大きな音を立ててドアを閉める」では「どんな場合でも暴力にあたる」は35.1%と低く、暴力と認識している人が少なかった。

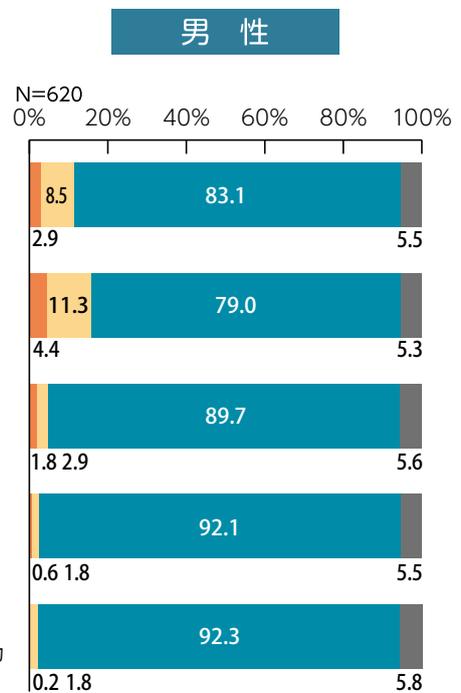
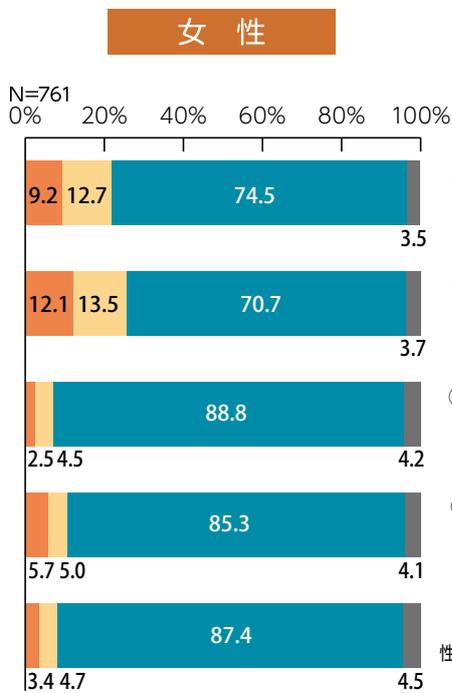
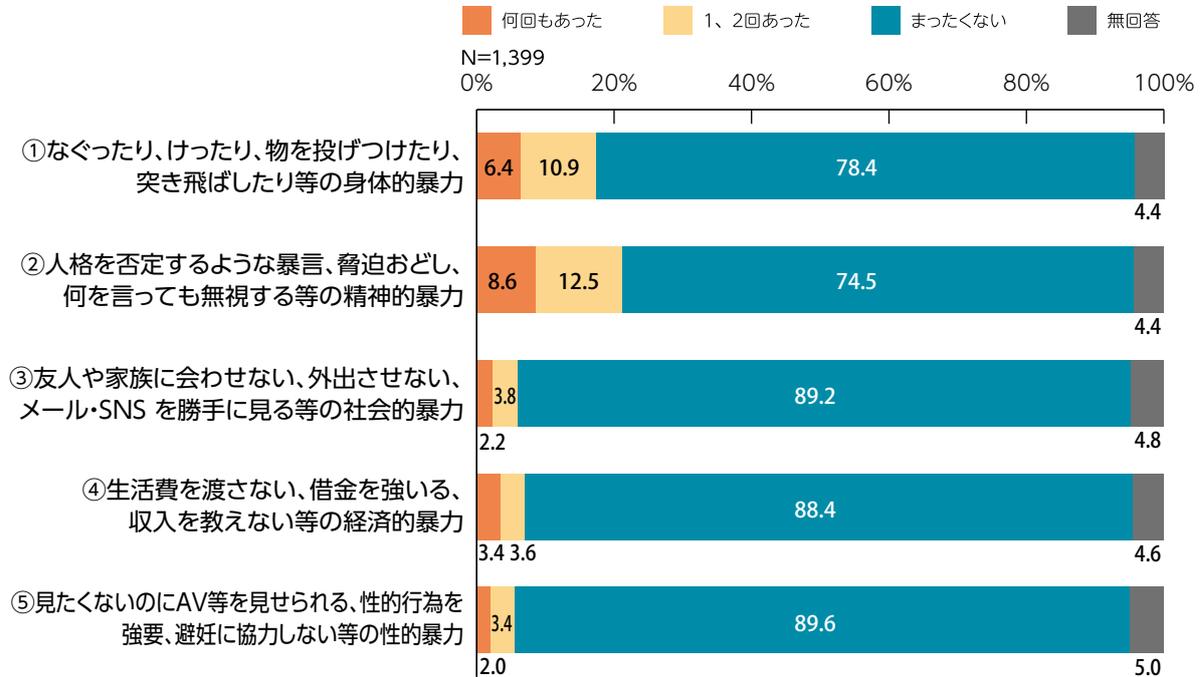


# 配偶者や恋人からの暴力の経験 報告書 p.105~107

●『DV経験あり』※は「②精神的暴力」で21.1%と最も高くなっている。

●すべての項目で『DV経験あり』は女性が男性より高くなっている。

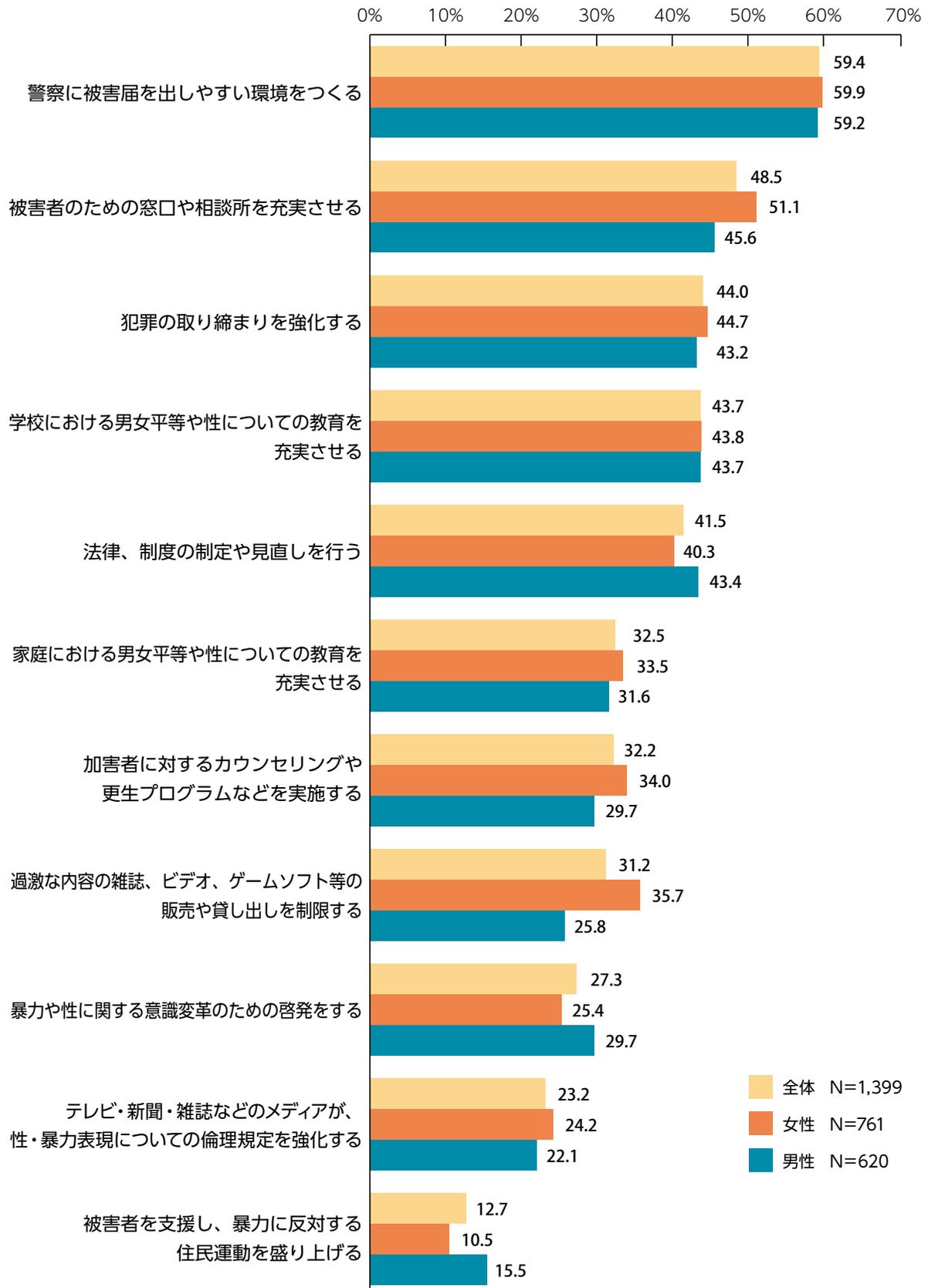
※「何回もあった」と「1、2回あった」を合わせたもの。



# 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

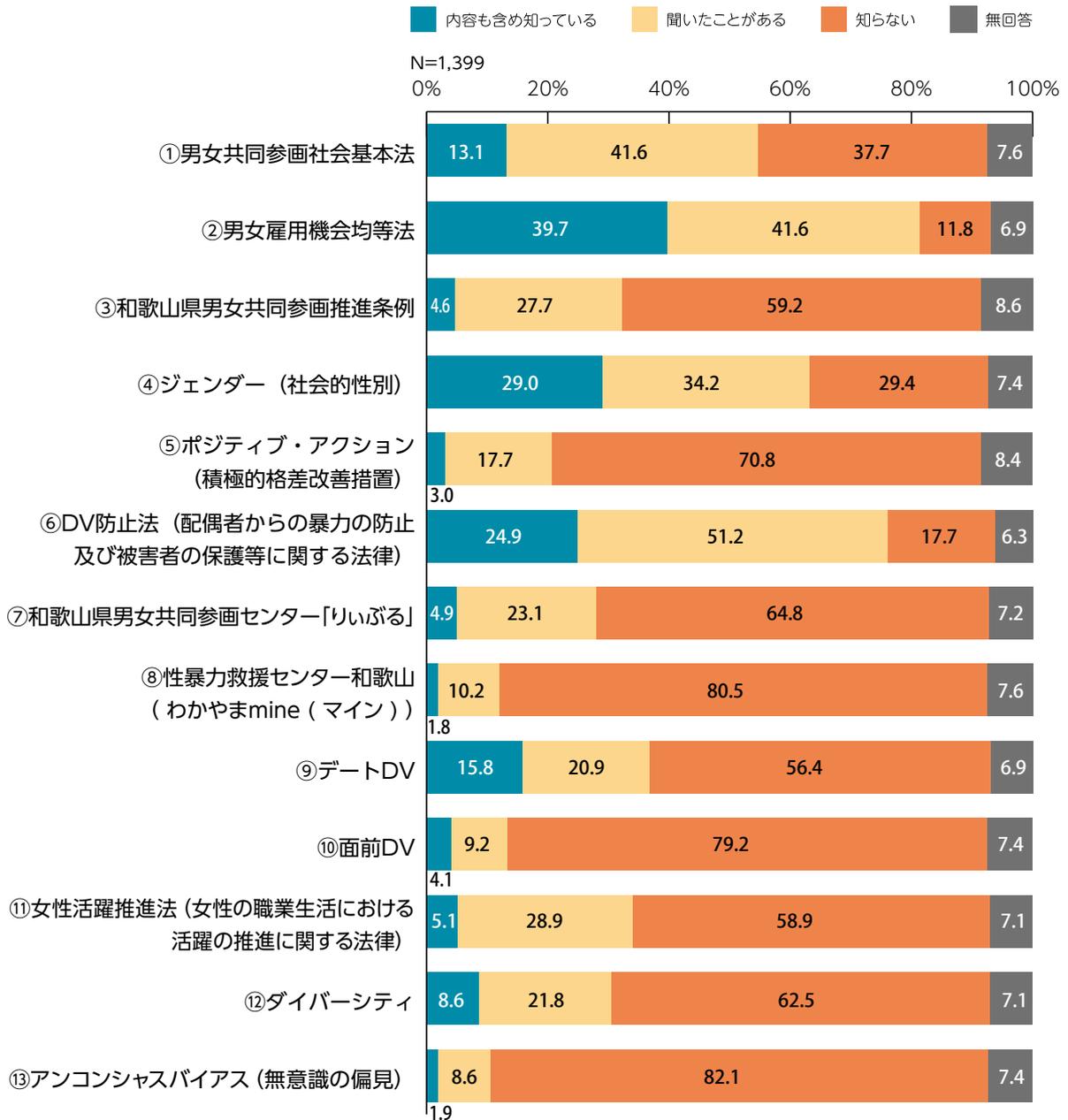
報告書 p.120~123

- 「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が59.4%と最も高く、過去調査同様最も多い意見となっている。
- 「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」では、女性が男性より9.9ポイント高くなっている。



## 男女共同参画の言葉についての認知度 報告書 p.124~129

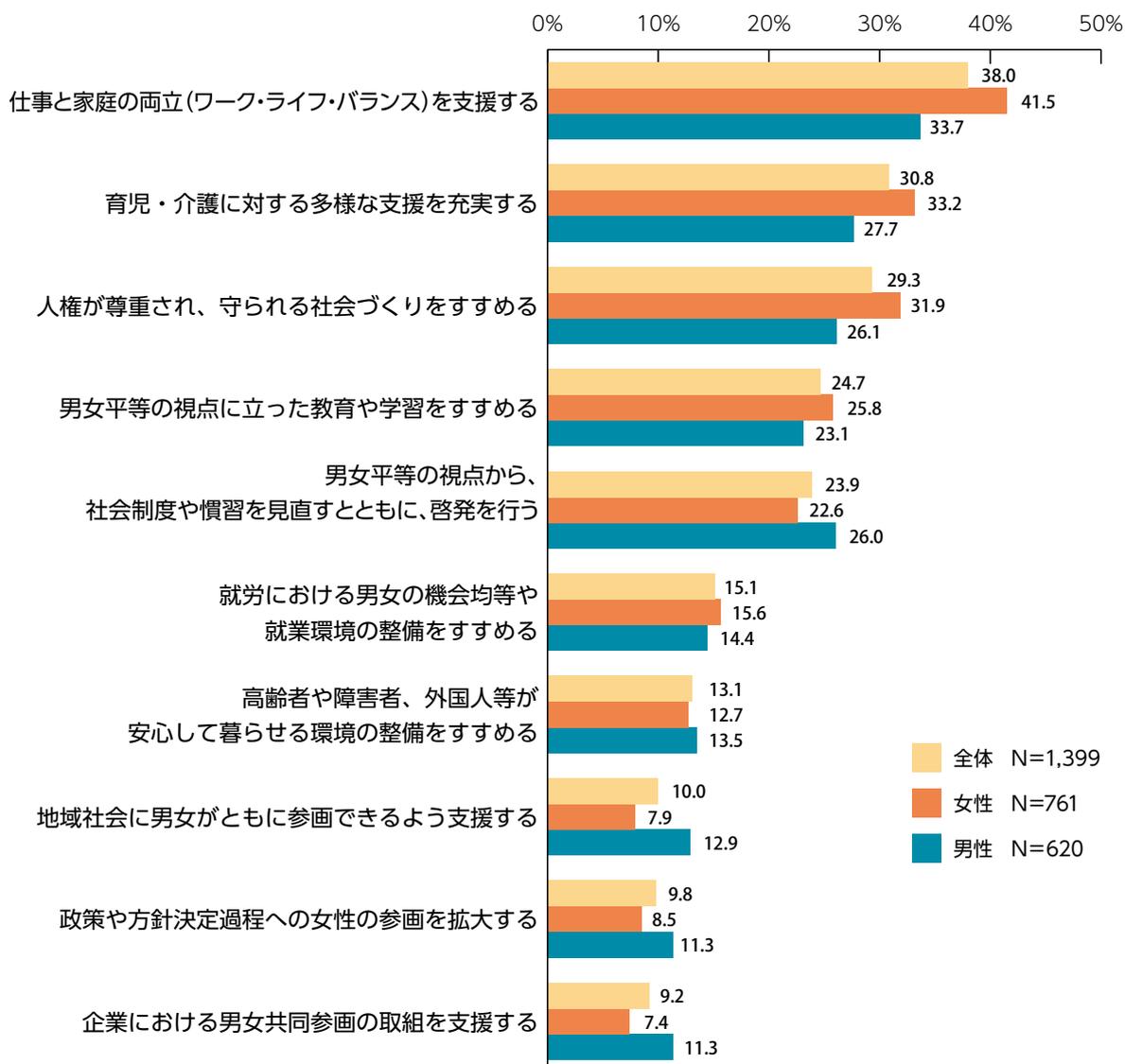
- 『知っている』\* は「②男女雇用機会均等法」、「⑥DV防止法」が80%前後と高くなっている一方、「⑧性暴力救援センター和歌山(わかやまmine(マイン))」、「⑩面前DV」、「⑬アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)」は「知らない」が80%前後となっている。
  - 「④ジェンダー(社会的性別)」を『知っている』は調査開始以来、初めて60%を超えた。
- \* 「内容も含め知っている」と「聞いたことがある」を合わせたもの。



# 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

報告書 p.132~135

- 「仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する」が38.0%、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が30.8%と高くなっており、過去調査と同様の結果となった。
- 「男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う」では、男性が女性を上回った。



(※上位10項目を掲載)

## ◎ 調査目的

本調査は、男女共同参画や女性の活躍等に関する県民の意識や生活状況を把握し、第5次和歌山県男女共同参画基本計画策定の基礎資料とするために実施しました。

## 調査の概要

調査地域：和歌山県全域  
 調査対象：県内全市町村から無作為に抽出した満20歳以上の男女3,000名  
 調査方法：郵送配布・郵送回収  
 調査期間：令和2年8月18日～9月4日  
 回収数：1,402件  
 有効回答数：1,399件（有効回答率46.6%）  
 うち女性：761件（54.4%）  
 うち男性：620件（44.3%）  
 うちその他：1件（0.1%）  
 うち回答しない：6件（0.4%）  
 うち無回答：11件（0.8%）

## 和歌山県環境生活部県民局青少年・男女共同参画課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1  
 TEL:073-441-2510 FAX:073-441-2501  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031400/index.html>